3年　国語科

単元名「れいの書かれ方にきをつけて読み、それをいかして書こう」
教材名「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」

本単元における自ら学びに向かう児童の姿

・目的を意識して中心となる語や文を見付けることができる子
・学習で身に付けた説明の工夫を活用して、読む人にとって分かりやすい文章を書くことができる子

研究主題に迫る手だて

（１）自ら学びに向かうための工夫

○単元導入の工夫

事前に「食べ物のひみつ」の本を教室に配置し、学習への関心が高まるようにする。導入では、食べ物に関するクイズを出題するなどして、普段食べている食べ物がどのようにしてできているのかを知り、学習への興味をもてるようにする。

さらに、実物の大豆や大豆を加工した食品を見せることで児童を惹きつけ、食品の形や特徴に注目させることで、筆者の例の挙げ方の工夫を見付ける学習へとつなげる。

○単元のゴールを明確にし、学習の見通しをもてるようにする工夫

これまでの説明文の学習を振り返りながら、学習計画を作成・掲示し、児童が単元全体の学習の見通しをもてるようにする。また、単元の終末に、「紹介したい食べ物のひみつ」を作ることを伝え、自らも筆者となって説明文を書くことで、読者に分かりやすい文章構成の工夫を学ぶ意欲をもたせる。

（２）対話的に学ぶための工夫

○グループワークの工夫

①視覚的なツールによる工夫

各グループに食品の写真を配布し、並べ替えながら話し合いをできるようにする。食品の状態や形状に着目させることで筆者の説明の工夫を読み取らせる。

②グルーピングの工夫

話し合いが円滑に進むように意図的にグルーピングする。また、話し合いのテンプレートカードを作り、テンプレートを基に進められるようにする。

③話し合いのルールを設定する。

「話す順番を決める」「友達の意見を否定しない」などの話し合いのルールを明確にする。ルールが定着するよう、ルールを掲示し他教科でも実践できるようにする。

○ワークシートの工夫

グループワークに入る前に、ワークシートに自分の意見を書いておくことで、話し合いが苦手な児童でも意見を発表できるようにする。

2025年11月27日

単元名：「れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう」

教材名：「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」

授業者：三田　綾乃

成果

視点①について

- 関連図書を事前に教室に配置し、児童が読めるようにしたことは、単元のゴールを意識して学習することにつながった。
- 単元のゴールを「紹介したい食べ物のひみつ」を作ることとした。分かりやすい文章を書くための文章構成を学ぶという読み取りの目的が明確となり、児童が意欲的に学習に取り組んでいた。

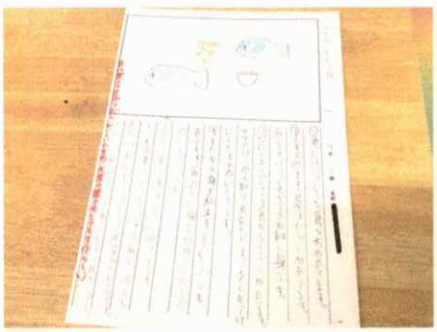
視点②について

- 大豆の加工食品の写真を使用して話し合うようにしたことは、考えを共有する上で有効だった。特に、読み取りが深まっていない児童にとって、友達の考えを理解する助けとなった。

課題

視点①について

- 見通しをもって学習に取り組めている児童がほとんどだった。しかし、学んだ文章構成を「紹介したい食べ物のひみつ」を作る学習活動にうまく生かせていない児童もいた。

視点②について

- 文章構成の工夫について話し合う学習活動において、個人の読み取りですでに理解を深めていた児童にとっては考えを伝える活動となってしまった。話し合いをしたあとに自分の考えをもつようにしてもよかった。